

令和4年度
東日本大震災アーカイブシンポジウム
－震災記録を次世代につなぐ－



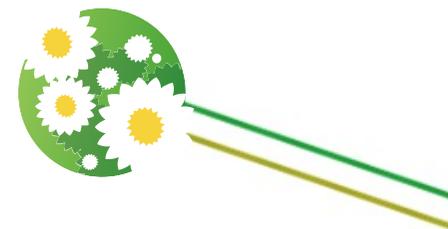
国立国会図書館東日本大震災アーカイブ 「ひなぎく」

—これまでの取り組み—

電子情報部主任司書 井上 佐知子

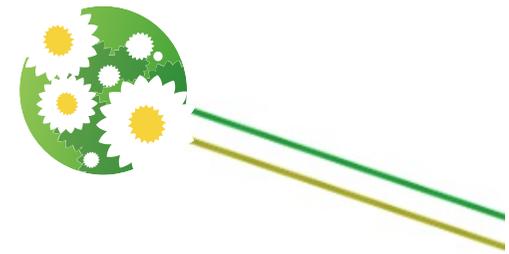


今日お話しすること



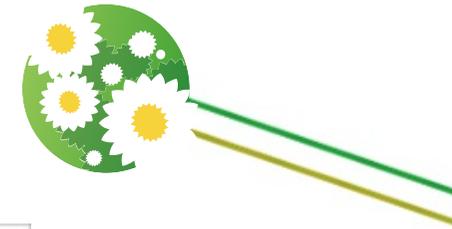
1. ひなぎくの概要
2. ひなぎく公開までの流れ
3. ひなぎく公開からこれまで
4. ひなぎくのこれから

ひなぎくの概要



1. ひなぎくの概要>

ひなぎくとは



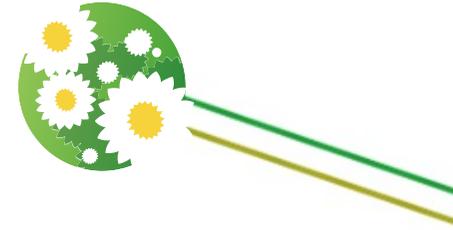
<https://kn.ndl.go.jp/>

東日本大震災に関する記録を
一元的に検索・閲覧・活用できる
ポータルサイト

平成25年3月7日公開

1. ひなぎくの概要>

どうして「ひなぎく」？



Hybrid **I**nfrastructure for **N**ational **A**rchive of the
Great East Japan Earthquake and **I**nnovative
Knowledge **U**tilization

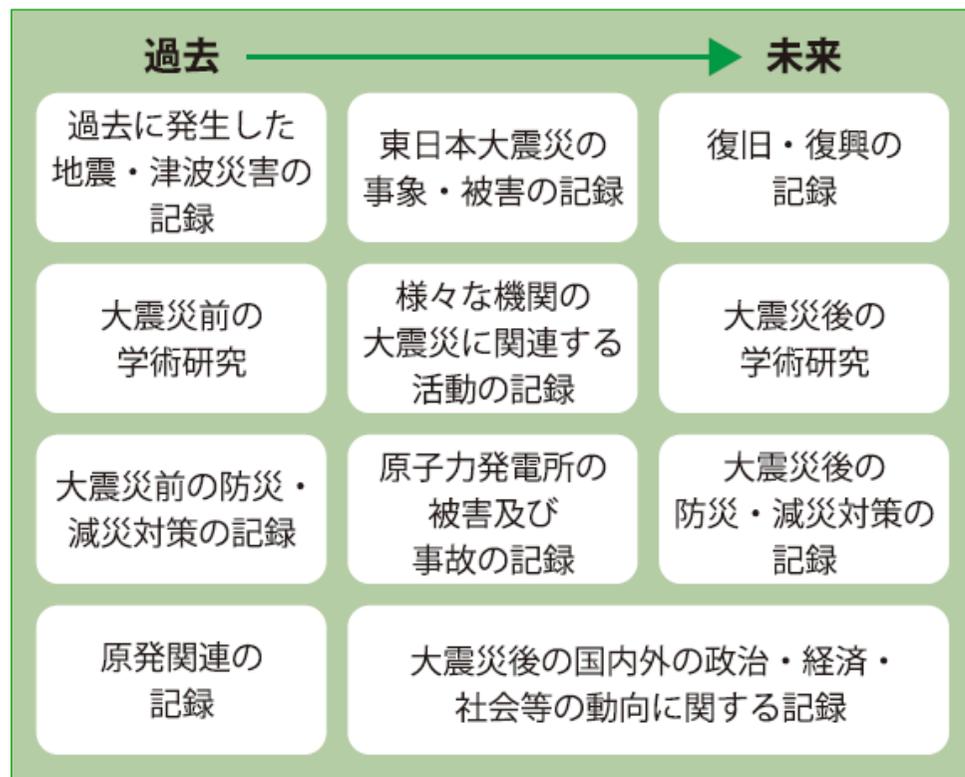
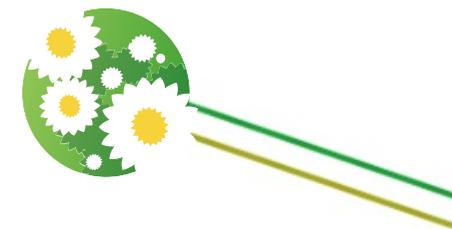


HINAGIKU

花言葉「**未来**」「**希望**」「**あなたと同じ気持ちです**」
に、復興支援という事業の趣旨を込めています。

1. ひなぎくの概要>

ひなぎくの検索対象



資料・記録の形態は・・・

- ・ 図書、雑誌
- ・ 報告書、文書
- ・ ウェブサイト
- ・ 写真、映像・動画

検索できるメタデータの数：

約 459 万件
(令和4年9月末現在)

コンテンツとメタデータ



震災記録 (コンテンツ)



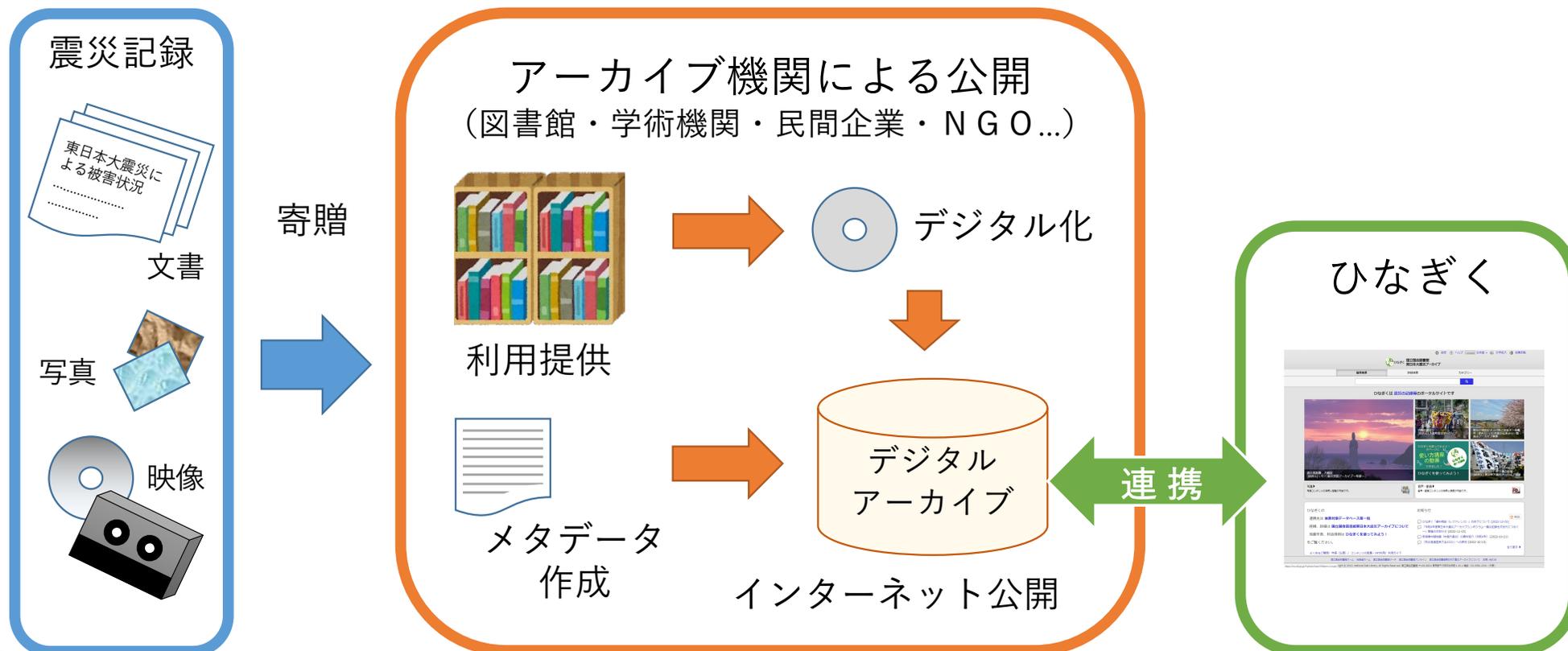
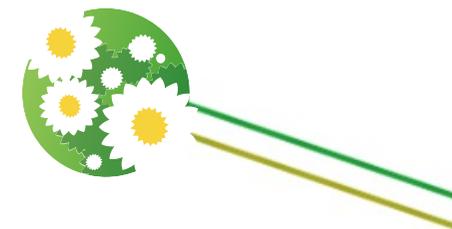
メタデータ



タイトル	パネルディスカッション「震災記録を残す、伝える、活かす－震災アーカイブの利活用促進に向けて－」 [動画]
作成者	東北大学災害科学国際研究所
出版者・公開者	国立国会図書館
利用条件	Web閲覧可
利用条件注記	インターネット公開 (許諾)
シリーズタイトル	令和3年度東日本大震災アーカイブシンポジウム－震災記録を残す、伝える、活かす－
主題	東日本大震災 (2011)

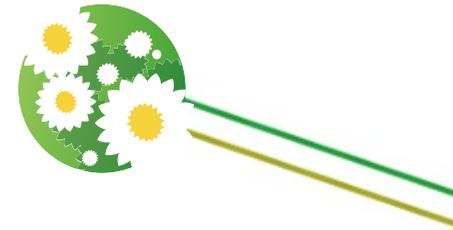
1. ひなぎくの概要>

資料・記録が検索対象になるまで



1. ひなぎくの概要>

ひなぎくの連携方法



① デジタルアーカイブとのメタデータ連携

⇒ 「ひなぎく」で一括検索

⇒ コンテンツは各アーカイブのサイトに遷移して閲覧

② 図書館蔵書目録等のデータベースとのメタデータ連携

⇒ 「ひなぎく」で一括検索

⇒ 資料（紙、CD、DVD等）の閲覧は各所蔵機関等へ

③ コンテンツを収集し、「ひなぎく」に投入

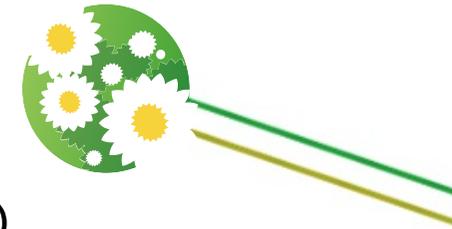
⇒ 「ひなぎく」で一括検索

⇒ 「ひなぎく」の画面で閲覧（一部、館内限定公開あり）

※コンテンツのデータは「ひなぎく」の電子書庫に保存

1. ひなぎくの概要>

ひなぎくの連携機関



51 機関、**57** データベースと連携

(令和4年9月末現在)

地方公共団体

- 青森震災アーカイブ（八戸市・三沢市・おいらせ町・階上町）
- いわて震災津波アーカイブ～希望～（岩手県）
- 東日本大震災アーカイブ宮城（宮城県及び県内市町村）
- 郡山震災アーカイブ（郡山市・富岡町・双葉町・川内村）
- 浦安震災アーカイブ（浦安市）
- 熊本災害デジタルアーカイブ（熊本県） 等

図書館

- 震災関連資料コーナー（岩手県立図書館）
- 3.11震災文庫（仙台市民図書館）
- 東日本大震災福島県復興ライブラリー（福島県立図書館）

学術機関

- みちのく震録伝（東北大学災害科学国際研究所）
- 日本災害DIGITALアーカイブ（ハーバード大学ライシャワー日本研究所）
- 福島原子力事故関連情報アーカイブ（日本原子力研究開発機構） 等

報道機関

- NHK東日本大震災アーカイブス
- 河北新報 震災アーカイブ
- 3.11 忘れない FNN東日本大震災アーカイブ

民間企業・各種団体

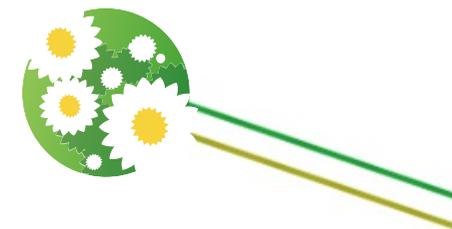
- niconico（ドワンゴ）
- 東日本大震災写真保存プロジェクト（Yahoo!Japan）
- 未来へのキオク（Google）
- 3がつ11にちをわすれないためにセンター（せんだいメディアテーク） 等

ひなぎく公開までの流れ



2. ひなぎく公開までの流れ>

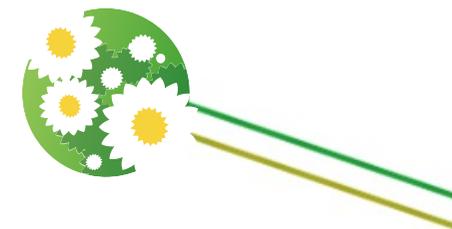
平成23年（2011年）の主な動き



- 東日本大震災発災（3月11日）
- 東日本大震災復興構想会議「復興構想7原則」を決定（5月）
- 東日本大震災復興対策本部「東日本大震災からの復興の基本方針」を決定（7月）
- 国立国会図書館とハーバード大学ライシャワー日本研究所「東日本大震災に関するデジタルアーカイブ共同事業に関する協定」を締結（8月）
- 平成23年度三次補正予算成立（11月）

2. ひなぎく公開までの流れ > 平成23年（2011年）の主な動き

震災記録に関する国の方針



●復興構想7原則 原則1

…大震災の記録を永遠に残し、広く学術関係者により科学的に分析し、その教訓を次世代に伝承し、国内外に発信する

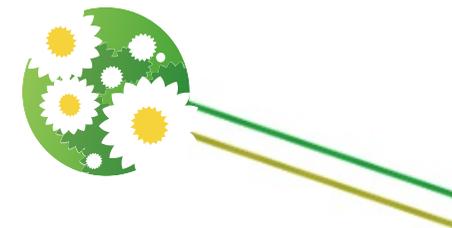
●東日本大震災からの復興の基本方針

（5 (4)⑥震災に関する学術調査、災害の記録と伝承(ii)）

…地震・津波災害、原子力災害の記録・教訓の収集・保存・公開体制の整備を図る。…こうした記録等について、国内外を問わず、誰もがアクセス可能な一元的に保存・活用できる仕組みを構築し、広く国内外に情報を発信する。

2. ひなぎく公開までの流れ＞平成23年（2011年）の主な動き

平成23年度三次補正予算



□総務省 「東日本大震災アーカイブ」基盤構築プロジェクト

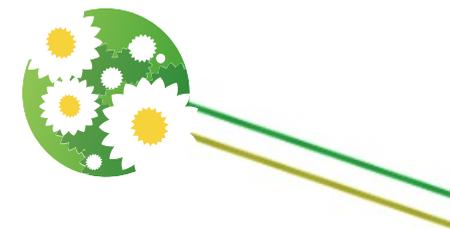
- ポータルサイトの構築
 - ・一元的なアクセスと永続的な保存
 - ・総務省が開発し平成25年度以降国立国会図書館による運用を想定
- 様々な機関による収集・デジタルアーカイブ構築の運用モデル実証
- 震災関連デジタルアーカイブ構築・運用ガイドラインの作成

□国立国会図書館 東日本大震災アーカイブ構築

- 多様な形態の資料を収集・検索するための機能開発
- 収集したコンテンツを格納するための電子書庫の整備
- 所蔵する震災関連資料のデジタル化

2. ひなぎく公開までの流れ > 平成23年（2011年）の主な動き

ライシャワー日本研究所との共同事業



ハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所
・・・日本研究の支援を行う世界で最も歴史のある研究所

- 国立国会図書館が収集するウェブサイトの情報提供
 - ・ 東日本大震災に関連する公的機関のウェブサイト、
 - ・ 公的機関以外の日本のウェブサイトで東日本大震災に関連するもの
- ライシャワー研究所が構築するアーカイブの開発成果についての情報共有

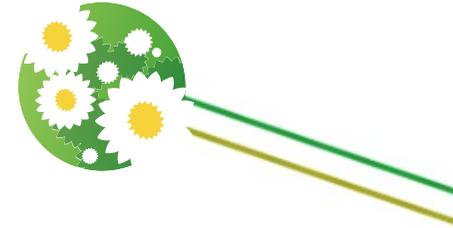


日本災害**DIGITAL**アーカイブ
(旧「**2011年東日本大震災デジタルアーカイブ**」)

<https://jdarchive.org/ja>

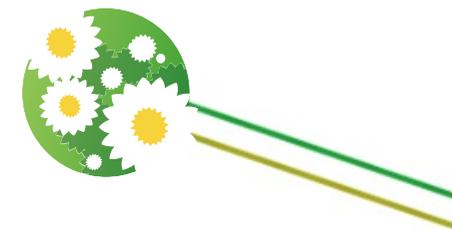
2. ひなぎく公開までの流れ>

平成24年（2012年）の主な動き



- 国立国会図書館「東日本大震災アーカイブ構築の取組について」報道発表（2月）
- 総務省と国立国会図書館が分担しひなぎく開発を開始（4月）
- 国立国会図書館の方針文書の整備
 - 「東日本大震災アーカイブ構築プロジェクトの基本的な方針」（5月）
 - 「東日本大震災アーカイブ収集等実施計画」（7月）
- 東日本大震災アーカイブ（開発版）の試験公開（11月）

2. ひなぎく公開までの流れ＞平成24年（2012年）の主な動き 東日本大震災アーカイブ構築プロジェクトの 基本的な方針



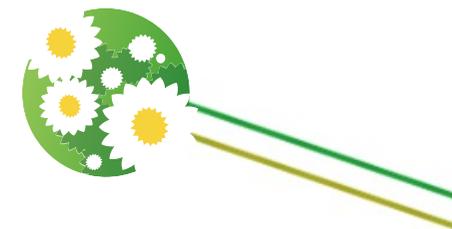
コンセプト：震災に関するあらゆる記録・教訓を、次の世代へ

基本理念：

- 国内に分散する東日本大震災の記録等を，国全体として収集・保存・提供すること
- 関係する官民の機関が，それぞれの強みを活かし分担・連携・協力し，全体として国の震災アーカイブとして機能すること
- 東日本大震災の記録等を国内外に発信するとともに後世に永続的に伝え，被災地の復興事業，今後の減災・防災対策，学術研究，教育等への活用に資すること

2. ひなぎく公開までの流れ＞平成24年（2012年）の主な動き

東日本大震災アーカイブ収集等実施計画



- 国会図書館による記録等の収集
 - 制度的に収集可能な記録等は、制度により網羅的に収集
 - 上記以外で他のアーカイブ機関による保存が困難な記録等は、寄贈、寄託、許諾等に基づいて収集
- 他のアーカイブ機関が持つ記録等のメタデータの収集
 - 可能な限り、機械的連携による。
 - メタデータを検索・提供する情報システムを持たない場合は許諾により収集する。
 - 記録等を収集したものについては、メタデータについても併せて収集するよう努める
- 他のアーカイブ機関による記録等の保存を推進、支援する

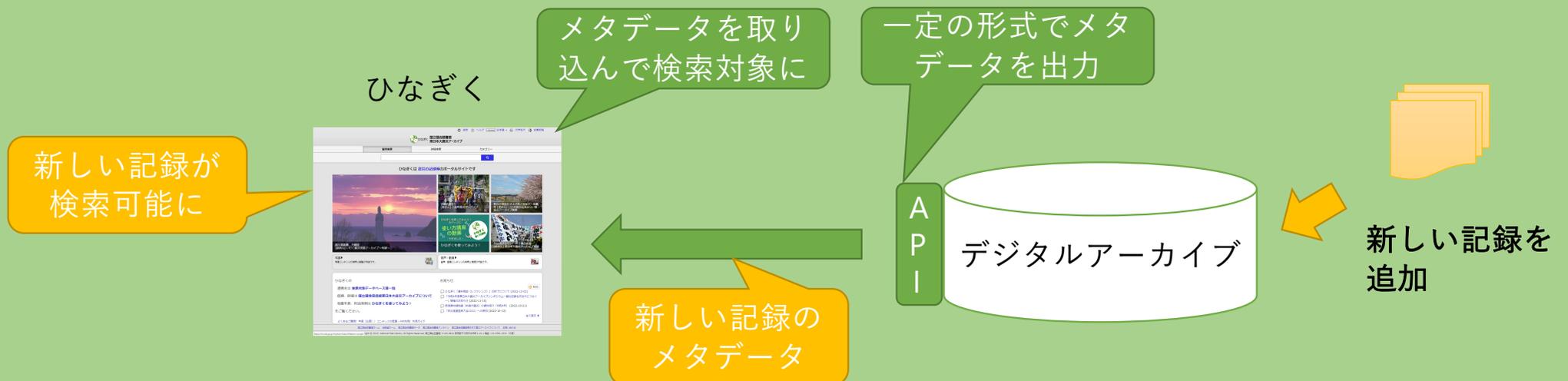
制度的に収集可能な範囲

国立国会図書館法（昭和23年法律第5号）により、以下について国立国会図書館への納入等が定められている。

- 日本国内で発行された出版物（図書、雑誌・新聞のほか、マイクロフィルム、CD、DVD、地図などを含む）
- 国等の公的機関が発信するインターネット資料（ウェブサイト）
- 民間のオンライン資料（電子書籍、電子雑誌等のうち、コード又はフォーマットの要件を満たすもの）

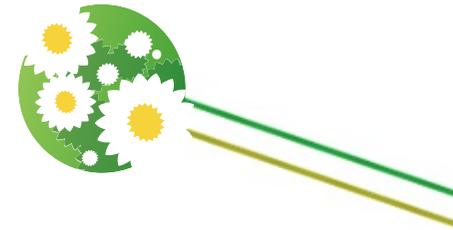
機械的連携とは

デジタルアーカイブが提供する外部提供インターフェース
(Application Programming Interface : API) を介してデータをやりとりすることで、アーカイブ同士を連携させること



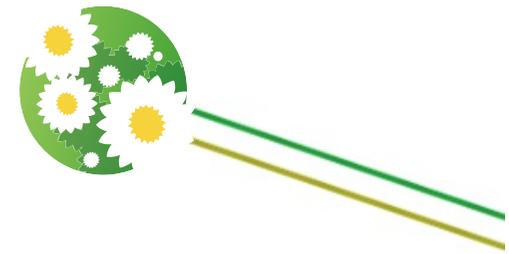
2. ひなぎく公開までの流れ>

平成25年（2013年）の主な動き



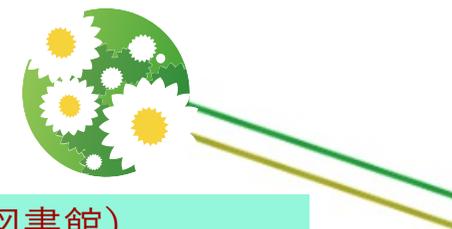
- 国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（ひなぎく）公開（3月）
- 「国立国会図書館及び東北大学災害科学国際研究所の相互協力に関する協定」締結（4月）
- 総務省「震災関連デジタルアーカイブ構築・運用のためのガイドライン」公開（5月）
 - 「NDL 東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」との連携について」
 - ひなぎくのメタデータスキーマ・許諾書を参考資料として収載

ひなぎく公開からこれまで



3. ひなぎく公開からこれまで>

公開時の連携アーカイブ



- ・「東日本大震災 写真保存プロジェクト」
(Yahoo!Japan)
- ・「未来へのキオク」 (Google)
- ・「NHK東日本大震災アーカイブス」
(日本放送協会)
- ・「3.11忘れないFNN東日本大震災アーカイブ」
(フジテレビジョン・FNN)
- ・「2011年東日本大震災デジタルアーカイブ」
(ハーバード大学ライシャワー日本研究所)

(総務省運用モデル実証事業)

- ・「あおもりデジタルアーカイブシステム」
- ・「河北新報震災アーカイブ」 (河北新報社)
- ・「東日本大震災アーカイブFukushima」
- ・「みちのく震録伝」 (東北大学)
- ・「陸前高田震災アーカイブNAVI」

- ・「震災文庫」 (神戸大学附属図書館)
- ・「日本原子力研究開発機構図書館蔵書」
- ・「立教大学共生社会研究センター」

- ・「CiNii Articles」 (国立情報学研究所)
- ・「JAIRO (現IRDB)」 (国立情報学研究所)
- ・「J-STAGE」 (科学技術振興機構)

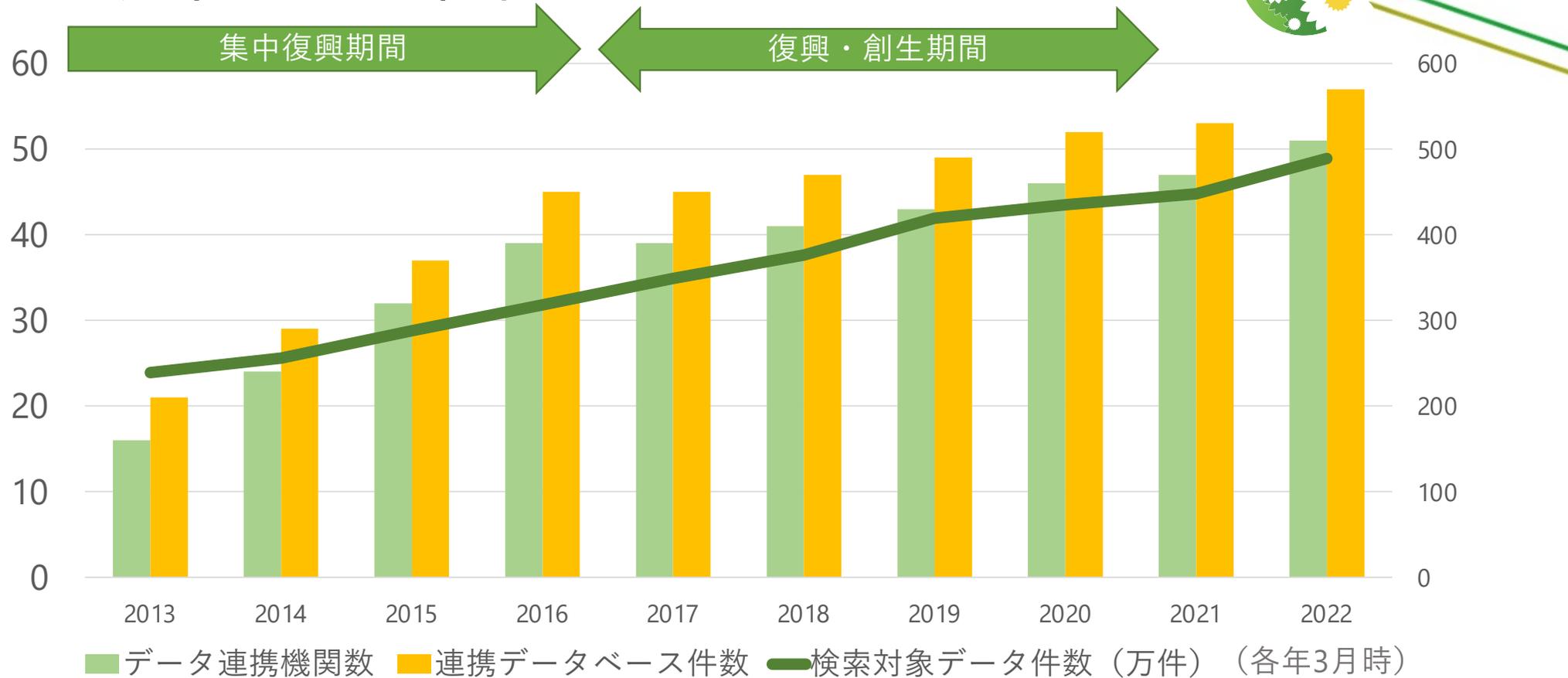
(国立国会図書館)

- ・「カレントアウェアネス・ポータル」
- ・「国立国会図書館インターネット資料収集
保存事業 (WARP)」
- ・「国立国会図書館雑誌記事索引」
- ・「国立国会図書館蔵書」
- ・「国立国会図書館デジタルコレクション」

(16機関21データベース)

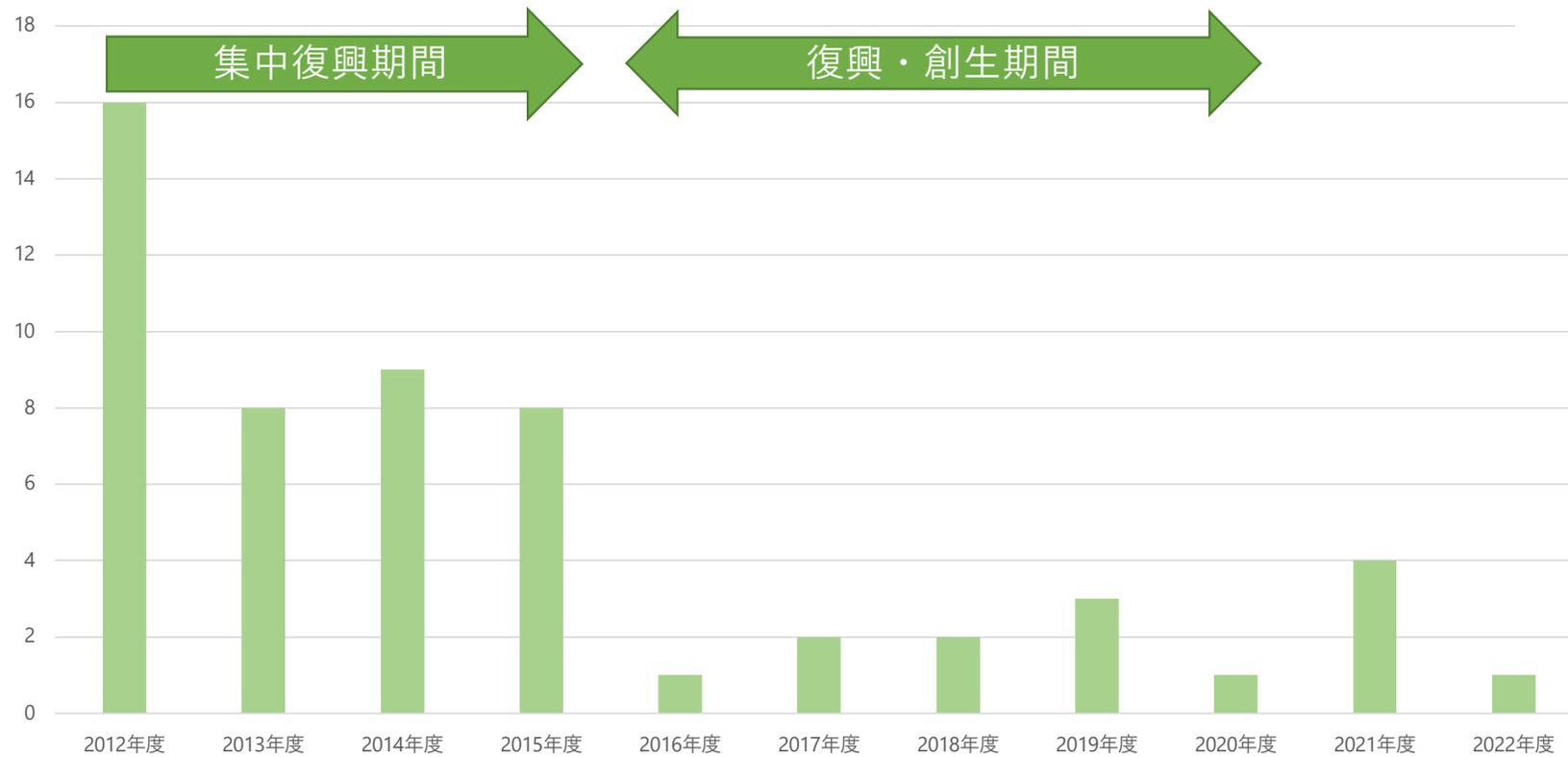
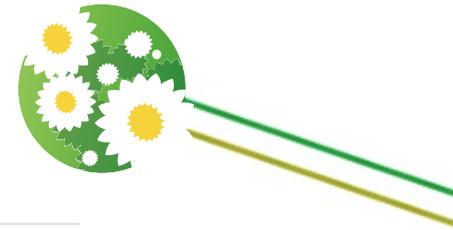
3. ひなぎく公開からこれまで>

連携状況の推移



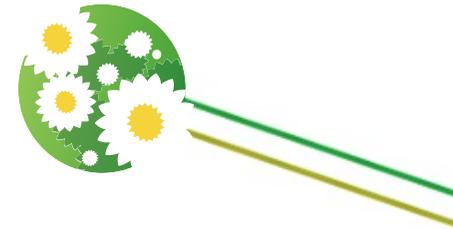
3. ひなぎく公開からこれまで>

新規連携機関数の推移



3. ひなぎく公開からこれまで>

最近の連携アーカイブ



- 阪神淡路大震災 激震の記録1995 取材映像アーカイブ（朝日放送テレビ）（R4.2）

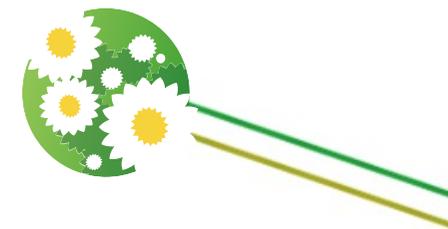
朝日放送テレビによる阪神淡路大震災被災地の取材映像。震災発生から25年を迎えた2020年1月からウェブサイトで開催されている。
- いま私たち市民にできることプロジェクト（R4.3）

東日本大震災・原子力災害をきっかけに始まり、BS 全国テレビ放送で市民が制作する番組を1年間放送した同プロジェクトの提供動画。
- 災害記念碑デジタルアーカイブマップ（防災科学技術研究所）（R4.7）

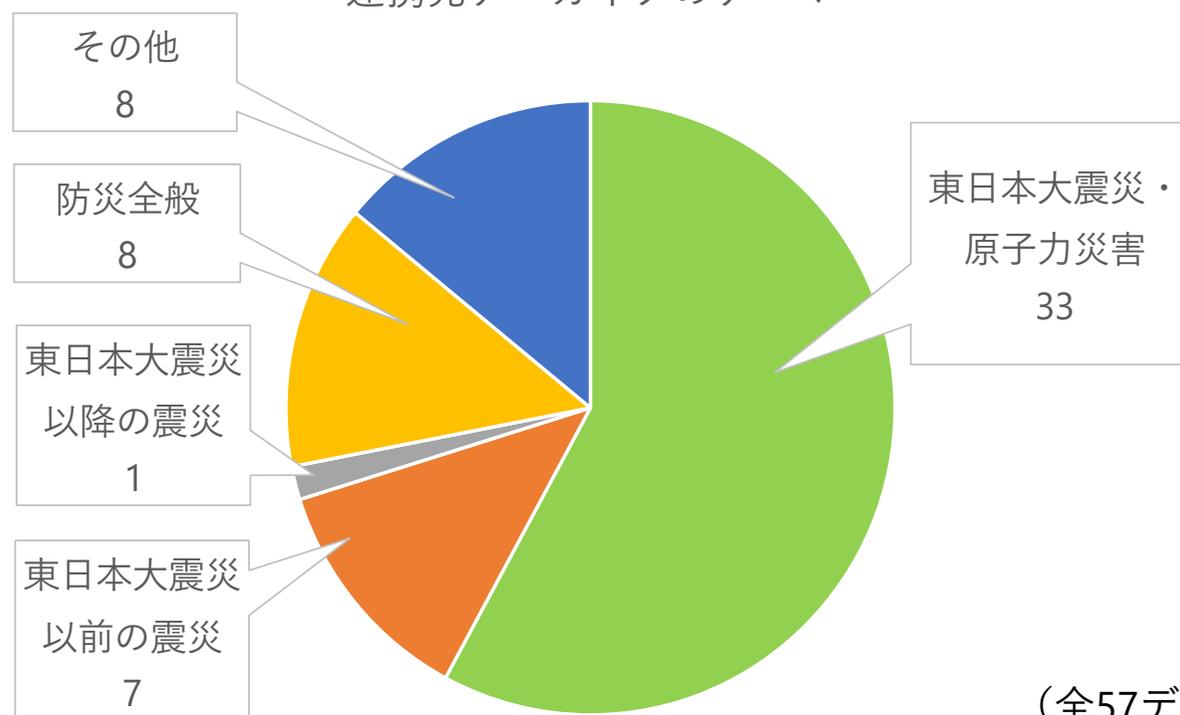
東日本大震災を含む全国各地の地震災害等を記録した災害記念碑を探し、碑文の内容などを見ることのできるアーカイブ。

3. ひなぎく公開からこれまで>

現在の連携状況



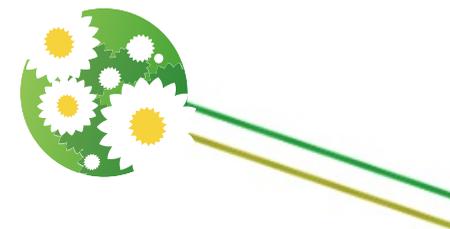
連携先アーカイブのテーマ



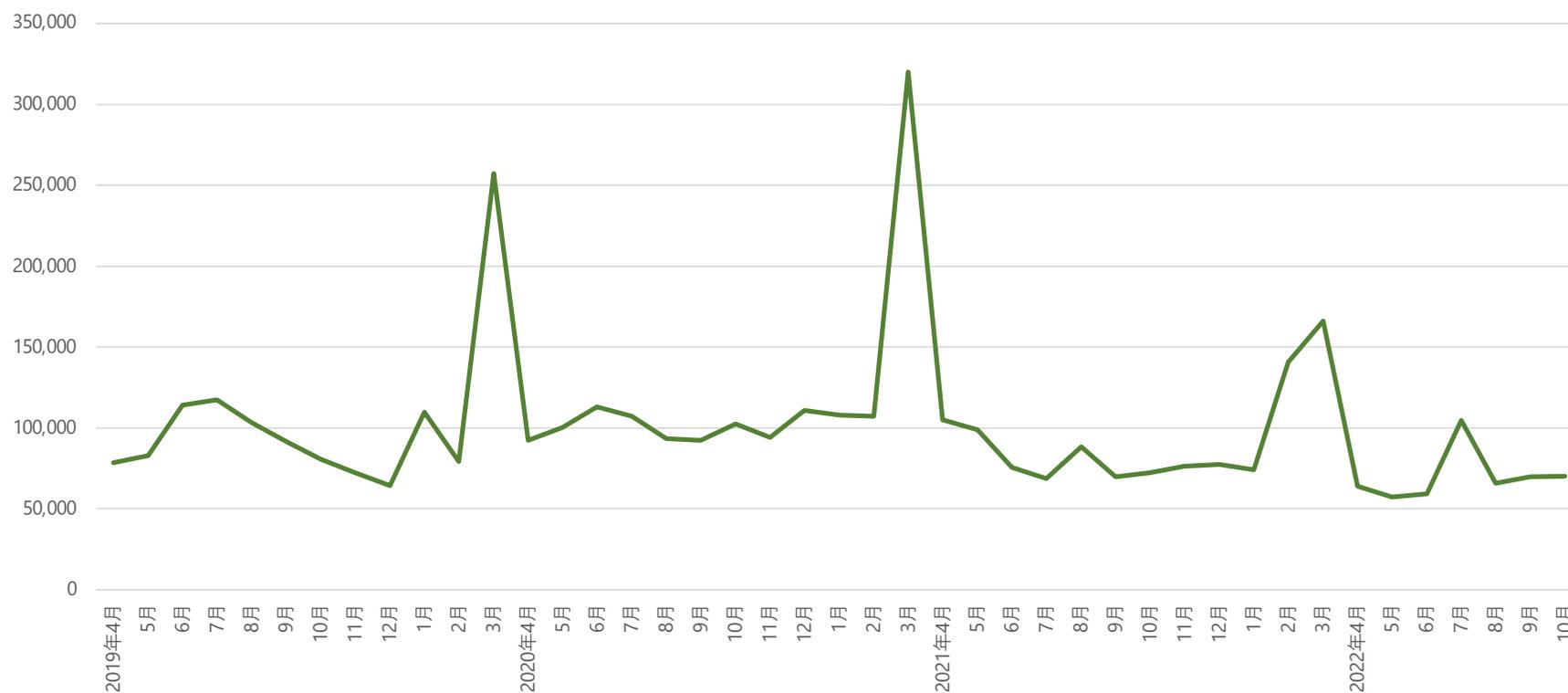
(全57データベース)

3. ひなぎく公開からこれまで>

アクセス状況

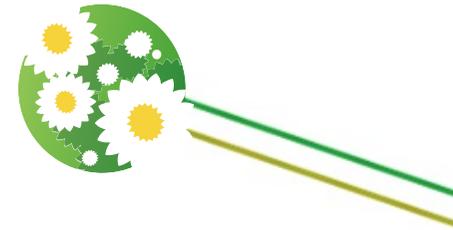


(ページビュー数)



3. ひなぎく公開からこれまで>

利活用の推進



●APIによるメタデータ提供

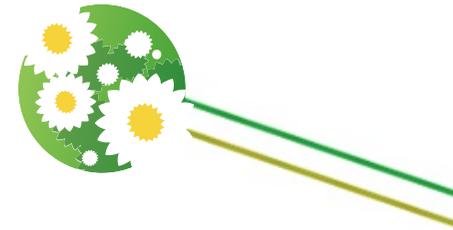
ひなぎくが連携・収集したメタデータのうち、連携機関の許諾を得たメタデータを出力できる外部提供インターフェース（API）を実装。外部のシステムからの横断検索等を可能にする。

●「ひなぎくを使ってみよう」ページ

- ひなぎく使い方講座（動画）
- 「地震年表」「テーマ別検索」など、検索語が思いつかなくても利用できるような検索ツール
- 防災学習に利用するための、中高生を対象としたマニュアル

3. ひなぎく公開からこれまで>

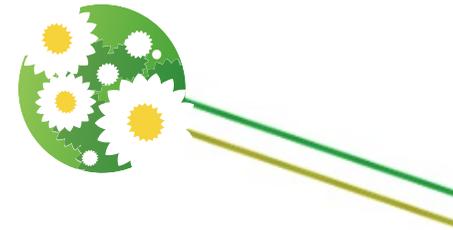
連携アーカイブの閉鎖への対応



- 陸前高田震災アーカイブNAVI (H26.11)
 - ➔ 許諾を得られた権利者のコンテンツを「ひなぎく」へ移管
- あおもりデジタルアーカイブシステム (H28.1)
 - ➔ コンテンツは「青森震災アーカイブ」へ移管
- NHK東日本大震災音声アーカイブス (H28.6)
 - ➔ NHK東日本大震災アーカイブスに統合
- 農林漁業協同組合（農協・漁協・森林組合）の復興への取組み記録
東日本大震災アーカイブズ (R3.3)
- 赤十字原子力災害情報センターデジタルアーカイブ (R3.3)
- 茨城県東日本大震災デジタルアーカイブ (R4.3)
 - ➔ コンテンツは「ひなぎく」が承継

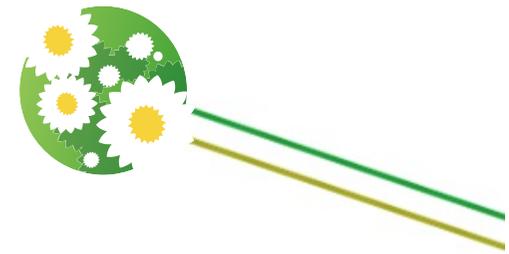
3. ひなぎく公開からこれまで>

閉鎖アーカイブの承継方針



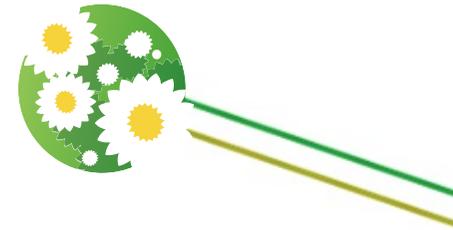
- 原則として、承継元アーカイブのメタデータ全件及びインターネット公開されているコンテンツを承継の対象とします。
- ひなぎくへ承継することについて、承継元機関において著作権、肖像権等の権利者の許諾を得られたコンテンツを承継します。
- 承継したデータの著作権その他の知的財産権は、その後の利用の態様にかかわらず、承継元機関に帰属します。
第三者による二次利用等の権利関係の問合せがあった場合には、問合せをした者に対して承継元機関の連絡先をお伝えすることになります。

ひなぎくのこれから



3. ひなぎくのこれから>

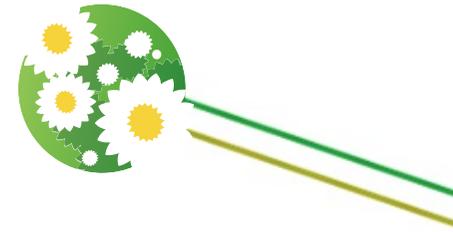
これまでのまとめ



- 連携機関数、検索できるメタデータ数は増加が続いている。アーカイブ新規公開は少なくなってきたており、今後の増加ペースは緩やかになる見込み
- アクセス数（ページビュー数）は毎年3月にピークがある。震災後時間が経つにつれて全体的に低下傾向であり、利活用の推進が課題
- 近年アーカイブの閉鎖が続いており、ひなぎくや他の大規模アーカイブへの承継によって震災記録の集約が進みつつある

3. ひなぎくのこれから>

考えなくてはいけないこと



●震災記録の利活用

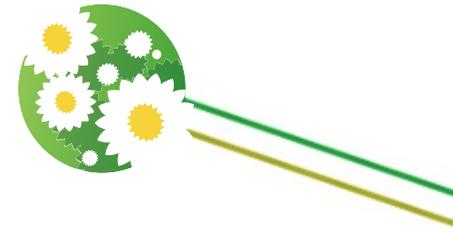
- 防災研究への活用等に必要な検索機能の改良には限界も
- 多様な災害への備えに重点を置きつつある防災教育で、どう使ってもらうか

●震災アーカイブの持続性

- ひなぎくは今後も継続します
- ひなぎくとの連携で連携先アーカイブの利活用が進むことを期待
- 閉鎖アーカイブの承継を継続します

●国全体の災害アーカイブの連携はどうあるべきか

ご清聴ありがとうございました。



<https://kn.ndl.go.jp/>

ご意見、お問い合わせは、hinagiku@ndl.go.jp まで



この資料（国立国会図書館のロゴを除く。）はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。

